

【開催報告】子ども文化芸術交流事業～レインボーホース～

子どもたちの芸術への創造性を高めるために、スクラム支援会議自治体と南相馬市の小中学生が交流しながら共同で芸術作品を制作しました。

期 日：平成30年11月17日（土）・18日（日）

会 場：鹿島農村環境改善センター(万葉ふれあいセンター)

講 師：女子美術大学（東京都杉並区）
ヤマザキミノリ教授・南島隆教授
ほか助手、大学院生及び学生11人

参加者：34人

- ・スクラム支援会議自治体の小中学生14人
(名寄市・杉並区・小千谷市・南伊豆町)
- ・市内の小中学生20人

内 容：馬7体のダンボールアート制作



作品を制作する前、アイスブレイクで打ち解けました。

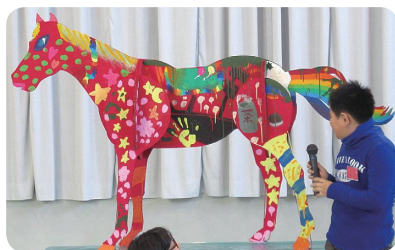
作品制作

ダンボールの馬に絵柄を描きました。制作中は、自分のまちの特産品などについて話がはずみました。



作品発表

完成した作品の工夫した点などを各班で発表しました。作品に各自自治体のキャラクターなどが描かれています。



全体写真撮影

最後に馬を背景に記念撮影しました。馬を並べるとレインボーカラー（虹色）になります。



「みなみそうまの文化芸術」 南相馬市生涯学習課（文化振興係）
〒975-8686 南相馬市原町区本町二丁目27番地 TEL 0244-24-5249 FAX 0244-23-3013
E-mail: shogaigakushu@city.minamisoma.lg.jp



みなみそうまの文化芸術

(平成31年3月1日発行)

文化芸術情報紙『みなみそうまの文化芸術』では、市内の文化芸術イベント情報を紹介します。
市のホームページもご覧ください。



文化芸術イベントカレンダー

https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/geijutsu_bunka/5336.html

【開催報告】第12回南相馬市総合美術展覧会 受賞者

平成30年11月10日(土)から13日(火)まで小川町体育館で展覧会を開催しました。

受賞者は下記のとおりです。(敬称略)

一般の部：受賞者34人

部 門	受 賞 名	氏 名
日本画	市 美 展 賞	佐久間 重 光
	優 秀 賞	大 井 廣 利
		中 野 勇
	奨 励 賞	遠 藤 誠 美 高 平 親
洋 画	市 美 展 賞	橋 本 和佳奈
	優 秀 賞	風 越 幸 恵 木 幡 香 世
		今 田 チイ子
	奨 励 賞	遠 藤 美穂子
		西 浦 武 義
		但 野 凜 子
		但 野 凜 子
書	市 美 展 賞	渡 辺 金 作
	優 秀 賞	佐 藤 志津子 林 しげ子
		泉 勝 明
	奨 励 賞	荒 優 子
彫刻・工芸	市 美 展 賞	穴 戸 正 洋
	優 秀 賞	藤 枝 貞 雄 風 越 良 一
		佐 藤 美佐子
	奨 励 賞	横 山 弓 子
		岩 本 照 雄
		番 場 友 好
		但 野 良 雄
		榎 内 保 子
写 真	市 美 展 賞	只 木 吉 昭
	優 秀 賞	山 田 順 子 志 賀 正 明
		岡 田 美 佳
	奨 励 賞	村 田 博
		横 山 夕 子
日本画	特 別 賞	松 永 誠 子
洋 画		牛 来 伸 吉

小中学校の部：受賞者14人

部 門	受 賞 名	氏 名	学校名	学 年
平面作品 (小学校)	市 長 賞	鎌 田 健太郎	原町一小	6
	教育長賞	木 幡 花	高平小	2
立体作品 (小学校)	市 長 賞	佐々木 彩 菜	原町一小	6
	教育長賞	齋 藤 夢	高平小	5
書 (小学校)	市 長 賞	渡 部 朔 矢	石神二小	6
	教育長賞	西 田 栞 皐	鹿島小	5
平面作品 (中学校)	市 長 賞	目 黒 琉 汰	原町三中	1
	教育長賞	只 野 鈴	鹿島中	2
立体作品 (中学校)	市 長 賞	寺 島 彬 人	鹿島中	3
	教育長賞	高 田 悠 生	原町三中	2
書 (中学校)	市 長 賞	境 亜沙美	原町三中	3
	教育長賞	佐 藤 吏 紗	石神中	3
技術家庭 (中学校)	市 長 賞	野 村 和 輝	原町一中	2
	教育長賞	荒 純 音	鹿島中	1



第12回市美展（小中学校の部）展示のようす

南相馬市総合美術展覧会は、通称「市美展」と親しまれる公募美術展です。一般の部は、日本画、洋画、書、彫刻・工芸、写真の5部門があり、相双地方在住または出身者から広く作品を募集しています。また、小中学校の部には、市内小中学校児童生徒の個性あふれる作品が並びます。

皆様も是非、市美展に出品してみませんか。作品の募集要項は、平成31年(2019)年8月中旬に発表予定です。

日本の伝統文化に親しもう ～茶道・華道って何？～

茶道や華道は、日本独特の伝統文化として、国内外で高く評価されています。国においても茶道や華道など日本文化の振興を図ることについて、文化芸術振興基本法（※下記参照）で定めています。しかし、「茶道」「華道」ときくと、格式張っていて近寄りがたいイメージがあるかもしれません。本来「お茶」も「お花」も私たちの身近にあるものです。茶道と華道の基本を今号で紹介します。

茶道

茶道とは、抹茶を決められた動作でおいしくたてて、お客様をもてなす伝統文化のことで、「茶の湯」ともよばれます。

茶道は、お茶をたてて飲むだけではなく、茶碗など道具や茶室は芸術性の高いものです。床の間には、掛け物といわれる書や絵画、四季折々の美しい花が飾られます。茶道は、衣・食・住のすべての要素が含まれる、生活の「総合芸術」ということができます。

茶道の歴史

飲むためのお茶は平安時代に中国から伝わったとされていますが、戦国時代から安土桃山時代にかけて「茶道」が成立していきます。

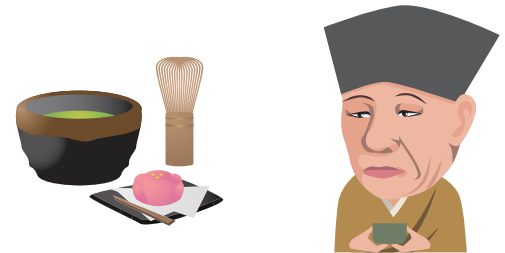
村田珠光（むらたじゅこう）は、「茶の湯は人の心を成長させる道である」という考えを示し、草庵（草屋根の小さな家）でお茶会を行いました。次に武野紹鷗（たけのじょうおう）は、「質素で寂しい中に感じられる美意識」を見出す「わび茶」をはじめます。そして、千利休（せんりのきゅう）が「茶道」を完成させました。

茶道の神髄は「和敬静寂」

千利休の述べたことばに「和敬静寂」があります。「和」は、お互いに思いやって仲よくすること。「敬」は、お互いに尊敬しあうこと。「清」は、見た目も心の中も清らかであること。「寂」は、いつも落ち着いて、うろたえたりしないこと。お茶の心は、この4文字のことばにすべて表わされるとされています。

千利休は、茶の湯を学ぶうえでここがけたい基本的なことがらを「利休七則」として次のとおりまとめました。

- ①心をこめて、おいしいお茶をたてる。
- ②湯がよく沸くように上手に炭を置く。
- ③自然の命を尊ぶように花を生ける。
- ④冬は暖かさ、夏は涼しさを表現する。
- ⑤時間に余裕をもってゆったりとした心をもつ。
- ⑥人を思いやって日ごろから準備を怠らない。
- ⑦いっしょに居合わせた人と互いに尊重しあう。



こども茶道教室

茶道裏千家淡交会南相馬同好会（古和田芙美子代表）が主催する「こども茶道教室」の様子です。茶道の手順だけでなく、正座からの立ち上がり方や美しい歩き方など「立ち居振る舞い」も学べます。



※参照：文化芸術振興基本法

第12条 国は、生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに、国民娯楽（囲碁、将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため、これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

華道

華（＝花）の道と書いて「華道」といいます。文字どおり、花器（花を生ける器）に草花や木などを生けることによって、人間の生きる道を追求する芸道のことで「いけばな」ともいわれます。花器に生けた花や木は、さまざまな場所に飾られますので、華道は私たちの生活の場面に密着した「生活文化」ということができます。

花びんに挿しているだけでは、花はすぐ枯れてしまいます。しかし、華道を学び手入れを行えば、花は長く咲き続けてくれます。華道は自然を大切にする文化であり、豊かな心とやさしさを身につけるきっかけとなります。

華道の歴史

仏教が日本に伝わった6世紀中ごろ、全国に仏教が広まり、仏様に花を供える習慣（仏前供花）が定着していったことが、華道の起源と考えられています。室町時代には、仏前ではなく床の間などいろいろな場所に花を生けて楽しむようになりました。

室町時代の中ごろ、京都の六角堂の住職・池坊専慶（いけのぼうせんけい）が花を生ける名人として武将に招かれ花を生けました。

その後、池坊専応（いけのぼうせんおう）がいけばなの思想を『池坊専応口伝』という巻物に書き、「華道」が成立しました。

江戸時代のはじめごろ、池坊専好（いけのぼうせんこう）は、いけばなの技術をさらに高め

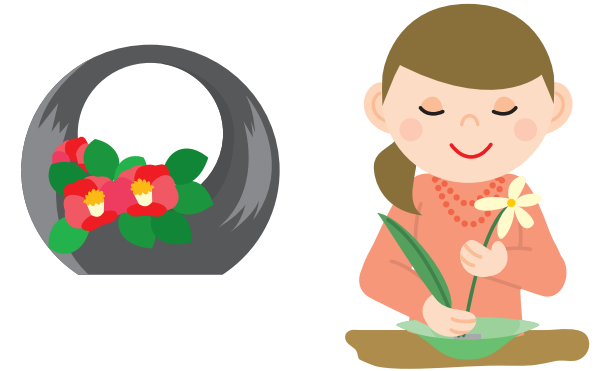
て尊敬を集め、御所などで開かれるお花の会を指導しました。江戸時代の中ごろになると、天皇家、公家や武家だけでなく、一般町人の間にも手軽に華道は広まり、さまざまな流派が生まれました。

明治時代、女性の教養教育の一環として、女学校で華道や茶道が導入されたため、華道や茶道は女性の教養として日本全国に広まりました。このため、華道や茶道は女性のたしなみというイメージがありますが、もともとこれらの家元は男性です。男性の方も気軽に華道や茶道をご体験ください。

いけばなとフラワーアレンジメントの違い

いけばなは、基本的に草木が持つ個々の特性を最大限に生かしながら「無駄を省略した緊張感のある美しさ」をめざしています。

一方、西洋のフラワーアレンジメントは、たくさんの花を使って「空間を埋め尽くした色彩の華やかさ」をめざしている面があります。



親子いけばな教室

原町区華道連合会（大場盛子代表）が主催する「親子いけばな教室」の様子です。彼岸桜、チューリップ、スイートピーなど季節の美しい花木を生けていきます。



※参考文献：『茶道・華道・書道の絵辞典』PHP研究所